



春のヒグマによる人身被害の防止

～ヒグマとの事故を防ぐために～



○複数で行動し、音で存在を知らせる

野山には1人で入らず、複数で行動するようにしましょう。

入山するときは、クマ鈴やラジオ等を持ち、会話しながら、人の存在を知らせましょう。

ただし、人由来の食物を口にすることがあるヒグマは、人の出す音を聞き、近づいて来るなどの例外もあるので、注意が必要です。

○ヒグマの出没情報等に気を付ける

ヒグマは、市街地、公園、河川敷、緑地帯など、身近な場所にも潜んでいる可能性があります。自治体のホームページや、新聞やテレビなどで、ヒグマの出没情報等を確認しましょう。

○残飯や生ゴミの処理には注意する

ヒグマは、いったんゴミの味を覚えると、それを目当てにゴミ捨て場などに繰り返し出沒す

るようになります。ゴミを野外に放置したり、埋めたりしないようにしましょう。

○フンや足跡、食べた跡を見つけたら、すぐに引き返す

ヒグマのフンや足跡、草や木などが食いちぎられた跡などを見つけたときは、すぐに引き返しましょう。

○落ち着いて行動する

万が一、ヒグマに遭遇した場合は、落ち着いて行動しましょう。逃げたり、騒いだり、慌てて行動すると、かえってヒグマを興奮させ、襲われる危険性があります。リュックや持ち物の回収はせず、ゆっくりと静かに立ち去りましょう。

●詳細 芦別警察署 ☎22-0110



山菜採りによる事故の防止

～慣れた山にも 隠れた危険が～



例年、4月に入ると、行者ニンニクやタケノコ等の山菜を求めて入山し、山中で道に迷ったり、沢に転落する事故が発生しています。慣れた山でも、油断による「危険な落とし穴」があることを忘れず、次の点に注意しましょう。

○行き先を家族に伝える

行き先が分からないと、捜索開始が遅れます。行き先や帰宅時間を家族に伝えましょう。

○無理に山奥に入らない

慣れた山でも、油断は禁物です。自分の体力や体調、天候や時間に合わせた行動をしましょう。

○単独での入山は避ける

万が一、迷ったり、怪我をした場合、一人では救助要請ができません。なるべく、複数で出

かけましょう。また、山の中では、絶えず声をかけ合いながら、お互いの位置を確認しましょう。

○目立つ色の服装で入山

万が一遭難した場合、ヘリコプターが上空から救助に向かう場合もあります。上空からは、赤色や白色系の服装が目立ち、発見されやすくなります。

○携帯電話やホイッスルを持つ

携帯電話があれば、非常時の連絡手段として、助けを求めることができます。

また、ホイッスルがあると、周囲に自分の存在を知らせることができます。

●詳細 芦別警察署 ☎22-0110